

大学内異分野融合の好循環を実現する為の施策

慶應義塾大学 理工学研究科 博士課程
 博士課程教育リーディングプログラム オールラウンド型1期生

愈 浩洋

概要

- ▶ 大学内における問題解決においては異分野融合（学部間および学科間）を行うことが重要であり、そのためには異分野融合への意欲、異分野との出会い、異分野融合の継続、そして社会との関わりという4つの壁が存在する
- ▶ 異分野融合を推進することにより、イノベーションの確率を上げることができ、今後の日本の生産性の向上につながる

実現すべきビジョン

- 背景：世の中の問題は日々複雑化している
 現状：大学内の分野は絶え間なく細分化、専門化
- ▶ 異分野融合を推進することで、世の中の問題点を解決する
 - ▶ 異分野融合に取り組むための意欲、場、継続性、社会との関わりそれぞれについて取り組む

提言の具体的内容(1)

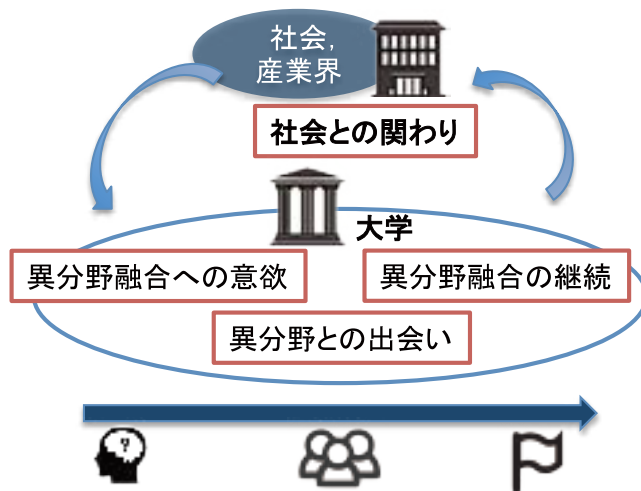
1. 異分野融合への意欲（評価基準の変更）

- 現状：・論文の執筆数がメインの評価基準、
 ・異分野融合は時間がかかるため、リスクとなる
- 改善：・ファカルティメンバーや研究成果の評価手法に異分野融合に関する項目を追加
 ・共著でも申請で第一著者と同等の評価を研究費審査や学内で行う
 ・異分野融合による革新的な研究成果の公的表彰を増やし、それを評価対象にする

2. 異分野との出会いの場（ダブルメジャーの促進）

- 現状：・異分野セミナー、オープンスペース等の取り組みがなされているが、メインの活動場所は研究室内で外部との接点が少ない
- 改善：・異分野の橋渡しとなる学生（ダブルメジャー等）の育成
 cf.リーディング大学院

提言の具体的内容(2)



3. 異分野融合の継続（研究費の自由度を向上）

- 現状：・領域を限定した予算分配や評価がメイン
 ・承認された科研費はそのテーマでしか使えない
- 改善：・政府および大学から異分野融合を活性化するための予算の評価、柔軟性を上げる
 ・他の新規テーマにも一部を割り当てられるように仕組みを追加
 ・審査時に異分野融合論文の評価の向上

4. 社会からの問題提起と還元（社会との接点の増加）

- 現状：・企業と特定分野、研究室との共同研究がメイン
- 改善：・社会・産業界からの問題提起に対して、多分野から解決案を募集する仕組みの構築
 ・成功例のノウハウや失敗例の教訓等の経験の共有